

1 自己評価

I 評価結果

目標をやや下回った。

- ・授業改善がすべての学級では、徹底できなかった。
- ・家庭学習（自主学習）をする児童が目標の8割に達することが出来なかった。
- ・「学校は楽しい」とアンケートに答える児童の割合が目標の9割に達することが出来なかった。
- ・親子の触れあい、基本的生活習慣の項目で保護者が定着していると答えた割合が、目標の8割に達することが出来なかった。

II 分析・改善方策

- ① 学力検査の結果を基に授業改善を図った。落ち着かないクラスで、分析結果を十分授業改善に生かすことができなかった。全クラスで学びの共同体の手法を取り入れ徹底して授業改善を図る。
- ② 特別活動（話し合い活動を中心に）を柱として研修を進めた。各クラス取り組むことが出来、話し合いの基本が定着しつつある。長縄跳び（8の字跳び）は学級作りの上でも大いに効果的であった。次年度も継続して研修を行う。
- ③ PTAの協力を得て、減メディアの取り組みを実施した。取り組み中は、親子の時間が持てたり、読書が出来たりと良い結果を得られるが、取り組みをやめると継続しない。取り組みの強化を図る。
- ④ 学校評議員、見守り隊、民生委員、学習ボランティア、老人クラブ等地域の人たちの協力のもと、いろいろな取り組みが実施出来た。お陰で、児童も地域の人たちへの親近感が増している。地域の人材の発掘を図り更なる協力をお願いしたい。学校ボランティア地域支援本部の立ち上げを行う。

2 学校関係者評価委員会

井上 義信（見守り隊隊長） 吉原 謙一（岡山県青少年相談員） 吉田 幸信（スポ小指導者） 安藤 勤（有識者）
三好 基（津山市消防団副団長） 小原 由和（前PTA会長） 永泉 郷子（有識者） 安藤 浩（PTA会長）

3 学校関係者評価

- 核家族化が進み、家庭に余裕がなく、子どもたちとの触れあいができていない。そのためか、児童に精神的に不安定さを感じる。
- 親から子へ、子育ての文化が継承できていない。PTA活動の中に、子育てについて学ぶ行事を積極的に取り入れてはどうか。
- スポーツ少年団の指導をしていて、子どもたちが変わってきた。指導者に対して正しい言葉遣いが出来ない。態度を注意しても、なかなか直そうとしない児童が増えてきた。若い世代に指導を交代することになった。
- QU検査は、学級の実態を掴むのにとっても効果的に思う。是非、5年生以外にも実施したらよい。
- いろいろな取り組みを数値化・グラフ化して「見える化」すれば、子どもたちも成果を実感しやすく、意欲向上に繋がるのではないか。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・校内研修の充実を図り、「学びの共同体」の手法を取り入れ、授業によって子どもたちを繋げ、子どもたちが活躍できる（主役になれる）授業作りをめざす。
- ・全学年で学力検査およびQU検査を実施、結果の分析をし、授業改善やクラス作りに生かす。
- ・放課後補充学習を実施して、基礎学力の充実と学力の低い児童の底上げを図る。
- ・業間運動・朝運動・体育の準備運動の充実を図り、体力の（柔軟性・俊敏性）増進を図る。
- ・業間タイム・遊びタイムを学級活動と連携して効果的に使い学級の仲間作りを進めていく。
- ・PTAと協力して、減メディア、家庭学習の定着を図る。
- ・津山市学校支援地域本部事業を取り入れ、地域の人材を有効に活用し、児童と地域の人たちとの信頼関係を更に高めていく。